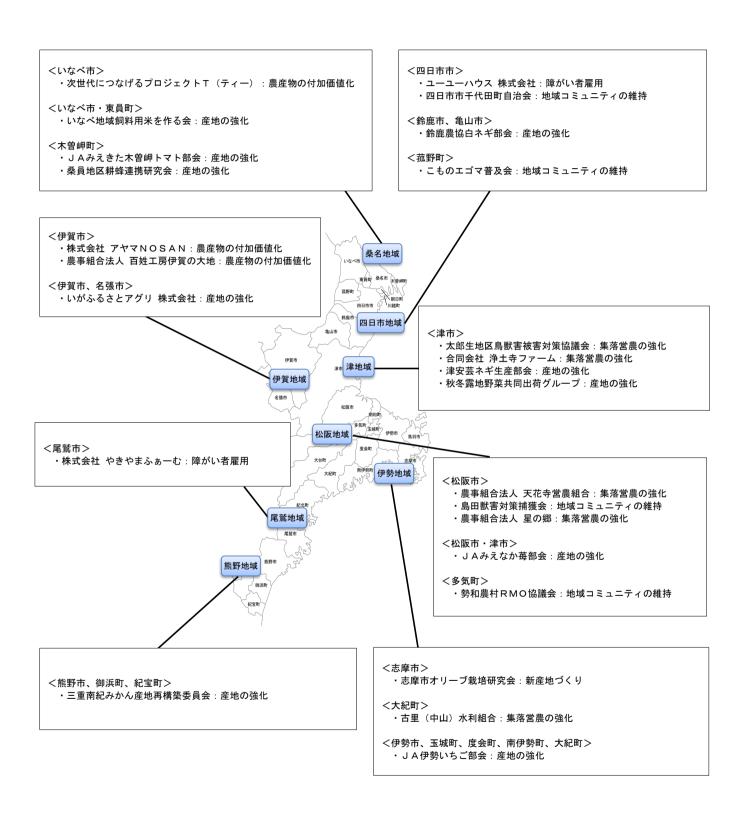
- 1 【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について
- 2 地域活性化プラン一覧
- 3 地域活性化プランに関する問合せ先

【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について

R6 プラン策定数 25プラン



事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定時期
桑名			石榑茶ブランド計画〜次世代につなげるプロジェクトT (ティー)〜	おける二重棚栽培と、各茶農家が自園栽培から自	た「石榑茶」のセット商品の開発 〇市内観光施設や宿泊施設、市内イベントと連携	販売数量: セット商品1,500セット、個装パック2,000袋セット商品取り扱い場所: 市内常設3か所、市内イベントでの配布2回	R7. 1
桑名	木曽岬町		福祉事業所との連携によるトマト産地の振興	木曽岬町のトマト産地では、経営体質の強化を図るため、国補事業等の活用により施設栽培環境の改善や規模拡大を進め、約22haで作付けされている。高齢部会員の栽培面積の縮小や退会がみられる中、産地力の強化に向け、新たな担い手の確保や生産性の向上に取り組む必要がある。	○安定生産と品質向上 ○労務管理能力の向上 ○新規就農希望者や規模拡大農家の投資額の負担 軽減	農福連携に関する部会員の意向調査、連携する福祉事業所の掘り起こし、生産現場での作業の試行新品種や新資材の検討、軟化玉対策、IPM等の取組実施MOSGAPの取組継続雇用研修会への参画や視察遊休施設や機械等の情報収集・共有と利活用	R7. 2
桑名	いなべ市東員町		いなべ地域産飼料用米を核にした 地域の活性化	栽培に適さない中山間地域を中心に、飼料用米「やまだわら」及び「北陸193号」が計150ha 栽培されており、その多くがJAみえきたへ出荷	〇既存品種におけるいもち病発生予測支援システム(BLASTAM)を活用したいもち病防除の	試験の実施:毎年5月~10月 研修会の開催:1回以上/年	R7. 2

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定時期
桑名		桑員地区耕蜂連 携研究会	景観作物による景観形成と養蜂振 興	園芸が盛んであり、花粉交配用にミツバチを大量に利用している。今後も安定的に花粉交配用ミツバチを供給するため、蜜源植物の確保に取り組む必要がある。	○夏期や春先など花粉が少なくなる時期のミツバ	耕蜂連携に取り組む経営体:耕種農	R7. 3
四日市	菰野町	こものエゴマ普 及会	菰野町大字吉澤、杉谷、田光、小 島、田口、田口新田地域	農業が盛んな地域である。 近年、後継者不足や鳥獣被害等がみられ、営農	○獣害に比較的強いエゴマの栽培による農地保全 と景観形成 ○農福連携の推進 ○エゴマ栽培への参加を通じた地域農業文化の伝 承	エゴマ栽培面積:40a エゴマ油の販売量:300本以上/年 栽培体験会の開催:1回以上/年	R7. 2
四日市	四日市		農福連携によるイチゴ生産販売事 業強化	栽培している。 地区内の農家数が高齢化に伴い減少する中、地	〇多様な人材に対応した労働環境整備および作業 効率化	ン作成 温泉施設の利用客をメインターゲットと	R7. 2

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定時期
四日市	四日市	四日市市千代田町自治会	千代田町自治会獣害対策プラン	当地区の耕地面積は水田23ha、畑地0.8haで、町内に営農組合はなく、認定農業者2名が中心となり、水稲や露地野菜等の営農活動を行っている。 近年、獣類による農作物の被害や住宅地域での生活被害が発生しており、地域での獣害対策が喫緊の課題となっている。	○WM(ワイヤーメッシュ)柵の設置による獣害対策 対策 ○周辺農地への獣害対策の拡大 ○地域イベント等を活用した農産物の情報発信	WM柵内の獣類による被害率:0% 区域内の獣類による被害率:半分以 下に軽減 農作物の情報発信:2回以上/年	R7. 2
四日市		鈴鹿農協白ネギ 部会	鈴亀地区の白ネギ産地の拡大	茶・植木経営においては新たな品目としての野菜の 導入が、野菜経営においては重量野菜から軽量野菜 への新たな品目転換が進んでおり、鈴亀地域は県内 最大の「白ネギ」産地となっている。 生産資材価格の高騰や、気候変動による高温等、 農業を取りまく状況が厳しくなっている中でも、新規就 農者は毎年増加しており、経験年数の浅い生産者へ の技術支援や情報交換の機会の創出が必要となって いる。	○経験年数の浅い生産者を対象とした「レベルアップ	産地面積: 20ha 部会員数: 50戸 販売高: 2億円 部会員1戸あたりの単収向上: 2,000kg/10a 部会員1戸あたりの品質向上: 2L規格 80%	R7. 2
津		太郎生地区鳥獣害被害対策協議会	獣害に強い集落づくりで太郎生の 農業を守ろう	当地域では、山間地特有の冷涼な気候を利用し、かってはインゲン等の野菜の産地が形成されていたが、現在は水稲、茶、ヨモギのほか、獣害に比較的強いと認知されるマコモが地域の特産品として栽培されている。 獣害に強い集落づくりを進めるため、地域ぐるみの 獣害対策を進めるため、非農家を含む住民参加型の 対策が協議できるような体制を構築する。	○集落別課題の把握、柵補修等の管理	研修会の開催:1回/年 集落別対策検討会の開催:2回/年 対策効果検証検討会の開催:1回/年	R6. 12

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定時期
津	津市		営農法人の経営強化による地域農 業の維持・活性化	当社は、浄土寺地区の農地を地区内の住民で担っていくために平成28年に設立された農業法人である。水稲6.8ha、麦5.8haを作付けし、会員数は30名、作業従事者は約10名である。高齢化等により、農業をやめる個人農家があることから、当社の経営面積が増えているが、栽培している品目は米麦がほとんどで麦跡の有効活用が課題となっている。また、担い手が減少していることから、作業の効率化を図り、経営を合理化する必要がある。	〇農地の集約化 〇麦跡や畑地の有効活用のため、新規作物として野菜栽培を導入 〇経営分析による経営の合理化	野菜栽培の導入面積:5→50a 経営分析の実施:コスト現状比10%削減	R7. 1
津		津安芸ネギ生産部会	「津安芸ネギ生産部会」を核とし たネギ産地の更なる生産拡大	ネギ」を導入し、産地の発展・確立を目指して生産拡大を行っている。現在、生産者数17名、栽培面積 1,174aとなり、地域を代表する園芸品目となっている。 今後産地としての地位を向上させていくためには、さらなる生産拡大、品質の確保及びブランド化に取り組		部会員数の確保:17→19名 栽培面積:1,174→1,292a	R7. 2
津	津市		秋冬露地野菜共同出荷グループの 地域活性化プラン	ループを形成し、秋冬露地野菜(キャベツ、ブロッコ	○出荷終了後に反省会の開催(4月) ○作付検討会及び栽培研修会の開催(7月) ○目揃え会及び出荷販売会議の開催(11月) ○新資材(農薬、肥料など)や省力化技術等栽培技術 に関する検討	品目別の作付面積の維持:ハクサイ 1,188a、キャベツ397a、ブロッコリー38a 関係機関との検討会(作付検討会、栽 培研修会、反省会等):3回/年	R7. 2

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定時期
松阪	多気町		子どもから大人まで、様々な立場 の一人一人の農ある暮らしを尊重 1 持続できる地域づくり		〇地域外に向けた水稲・大豆栽培体験会による関係人口の増加 〇コミュニティカーでの移動集会の開催による地域住民の居場所づくり	共同野菜づくりの実証:参加者各20	R6. 12
松阪	松阪市津市	J A みえなか苺 部会	イチゴ産地活性化への取り組み	当部会は、松阪支部、一志東部支部、三重中央支部の3支部で生産者96名がイチゴ栽培に取り組んでいる。 近年、部会員の減少や高齢化により産地規模の縮小が進んでいる一方で、新規就農者は比較担う搭に状況である。そのような中、今後産地を担う若手生産者や新規就農者の受け入れ体化や持が課題となっている。また、作業の省力化やけ、部会員にやさしい栽培方法の確立を切りが課題と環境にやさしい栽培方法の確立をりが課題とすが相互サポートできる体制づくりが課題となっている。	○中古ハウスやリースの活用による就農時の経済 的負担軽減 ○研修ハウスの活用検討 ○総合的防除・作業省力化体系の実証 ○種子繁殖型品種や抵抗性品種の導入による育苗	就農サポートリーダーの確保:7名 研修体制の構築 中古ハウスの現状把握、レンタルハウス事業の検討・情報発信 総合的防除・作業省力化に向けたマニュアル作成 新品種、抵抗性品種の導入に向けた研修会の実施:各1回以上/年	R6. 12
松阪	松阪市			当法人は、水稲(主食用米9ha・飼料用米5ha)、麦6haを栽培するほか、地区内の畑管理を耕作放棄地対策として受託している。構成員の高齢化が進む中、将来に渡って持続的な経営を続けていくため、地域内でオペレーターの確保・育成が課題となっている。	〇防護柵を活用した獣害対策	農道、水路等の保全管理:1回/年 直売所での米販売量:40俵/年 防護柵の見回り活動:3回/年 経理や事務手続きの分担:随時 オペレーター会議:1回/年	R6. 12

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定時期
松阪	松阪市	島田獣害対策捕獲会	持続可能な営農に向けた地域団体 と連携した野生獣の密度管理	るシカ、イノシシが農地に侵入し、農作物に甚大な被害を与えている。獣害による収穫皆無のほ場もあり、担い手の経営に悪影響を及ぼすとともに、直売所向けのビワや野菜にも被害が及び、営農意欲の低下が懸念されることから、獣害対策が喫緊の課題となってい	応策の検討 〇害獣の捕獲技術の向上	害獣の出没状況、農作物の被害状況の把握:随時 獣害対応策の検討:12回 三重県獣害フォーラムへの参加、普及センターとの情報交換 ジビエ料理に関する先進地視察研修:1回、レシピ検討:5回、自治会役員による試食会:5回、地域イベントでの試食会:2回	R7. 2
松阪	松阪市	農事組合法人星の郷	地域資源の活用による農業・農村 の活性化と担い手組織の持続的な 発展	5.5haで安定した経営を確立している。 一方で、オペレーターは高齢化しており、将来 に渡り持続的な経営を続けていくため、地域内で オペレーターの確保・育成が課題である。また、	〇農産物の販路拡大 〇農村環境保全活動発生予察情報を活用した病害 虫適期防除	水路、農道の補修等の実施:5回 病害虫防除所等の発生予察情報確	R7. 2
伊勢	志摩市	志摩市オリーブ 栽培研究会	地域の特産品目「 オリーブ 」の 生産販売体制の確立	な気象条件を活かして、イチゴ・メロン・ミニトマト等の施設園芸やタマネギ・甘藷等の露地野菜との複合経営とともに、酪農・養豚・養鶏の専業	〇環境に配慮しつつ高付加価値化を目指した特別	オリーブ栽培面積:1.5→3.0 h a オリーブ出荷量:500kg/年	R6. 12

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定時期
伊勢	伊勢城会伊勢 市町大紀町	JA伊勢いちご 部会	伊勢の産地の維持・活性化に向け たイチゴ新品種 「うた乃」の導 入	当部会は、伊勢市、玉城町、度会町、南伊勢町、大紀町の生産者89名、作付面積約13haのイチゴ産地である。県内でも早い段階から産地化が進んだ一方、高齢化による産地の規模縮小が懸念され、さらに、近年の猛暑から、育苗期の作業負担や病害虫発生による苗不足のリスクが大きい状況である。 育苗期間の短縮や育苗作業の省力化を図り、三重県が開発した種子繁殖型品種「うた乃」を導入し、産地の維持・活性化を図る。	〇高付加価値化を目指した特別栽培の研究 〇市内飲食店や観光施設と連携した「うた乃」活用方	「うた乃」栽培面積: 20→70a 「うた乃」出荷量: 3.7→12t	R7. 1
伊勢	大紀町		大紀町永会地区の持続可能で安定 的な農業の確立	当地域では、農業者の高齢化・担い手不足が進んでおり、農地は山間谷間の耕作条件の悪い場所が多いことから、耕作放棄が顕著に進行している。また、ニホンジカ、イノシシ、ニホンザルによる獣害が恒常的に発生しており、獣害対策が喫緊の課題となっている。	〇実証ほの設置 〇鉄鋼スラグを活用した省力的な獣害対策、除草の省	「鉄鋼スラグを活用した侵入防止柵の機能向上計画」策定施エマニュアルの作成	R7. 3
伊賀	伊賀市	株式会社アヤマ	農業者をつないで人を呼び込め 〜道の駅あやまを拠点とした農産 物販売と人気加工品の開発を通じ て〜	おり、高齢化等で耕作できなくなった近隣農地の 作業を請け負い、作付規模は令和5年度で水田	ンディングと地域の農業者の連携によるコラボ商	開発および販売:3品	R6. 6

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定時期
伊賀		農事組合法人百姓工房伊賀の大地	農事組合法人百姓工房伊賀の大地 地域活性化プラン 〜地域特産品開発・集客交流で農 地と地域を守る〜	模拡大ができず、畑作も面積規模をとれない山間田で、農業者の高齢化と後継者不足が進行している。さらに、近年獣害の拡大が顕著となり、農業生産への意欲減退と耕作放棄地増加に拍車をかけ	料不使用の栽培技術の向上 〇米・米粉商品の販売促進 〇就農サポートリーダーとして新規就農者の受け	農産物・加工品の売上向上 農家カフェの開設・加工施設の改築 関西圏・首都圏への販路拡大	R7. 1
伊賀	伊賀市名張市		いがふるさとアグリ新規就農サポート体制の構築	等により、平成15年の7.8haから令和5年の4.7ha と20年で約6割の面積となっており、作付面積の	○アスパラガスとナバナに関する座学・実習研修 の実施 ○新規栽培研修会や就農フェア等を通じた、就農 希望者の掘り起こし	就農希望者の研修受け入れ:2人/年	R7. 3
尾鷲	尾鷲市	株式会社やきや まふぁーむ	農業で魅力ある豊かな地域を目指して	過疎化、高齢化の進行により担い手が不足して おり、山間農業地域に位置していることから、野 生鳥獣による被害も顕著で、生産者の生産意欲の 減退に拍車をかけている。 地域資源を活用し、雇用を生み出す仕組みを創 造するとともに、獣害対策を適切に講じることで 農業を維持し、地域の活性化を進める。	○イチゴ栽培における福祉事業所との連携 ○地域での獣害対策の実施 ○農産物加工品の開発、商品化及び販路開拓	イチゴ栽培の安定化 新商品の開発 農業体験等の実施	R7. 3

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定時期
熊野		三重南紀みかん 産地再構築委員 会		確保のため、輸出量増加と輸出販売先の拡大に向け取り組んでいる。 平成27年度から、殺菌・防カビ対策が求められたことから、殺菌・防カビ対策の処理により、選果工程が増え、1日の出荷量が制限された。また、果実のダメージが増大し、出荷から入荷までの期間が長引くほど腐り腐敗の問題が発生してい	組、輸出者向け大苗供給による早期収穫に向けた 取組 〇物流:新たなダンボール資材及び鮮度保持剤の		R7. 3

地域活性化プランに関する問合せ先

	問合せ先	電話番号
農林水産部	担い手支援課	059-224-2016

地域機関の窓口	電話番号
桑名農政事務所 農政室 地域農政課	0594-24-7421
四日市農林事務所 農政室 地域農政課	059-352-0629
津農林水産事務所 農政室 地域農政課	059-223-5102
松阪農林事務所 農政室 地域農政課	0598-50-0515
伊勢農林水産事務所 農政室 地域農政課	0596-27-5164
伊賀農林事務所 農政室 地域農政課	0595-24-8108
尾鷲農林水産事務所 農政・農村基盤室 地域農政課	0597-23-3498
熊野農林事務所 農政室 地域農政課	0597-89-6122